

地域に学び、地域に返す

背景・目的

人間文化学科各ゼミでは、地域にフィールドを求め、それぞれの分野から研究を進め、その成果を発表する活動を行っている。その成果は、卒業論文に反映しているが、ここでは、学科全体で取り組んだ二つの実践について報告する。

実施内容(1) 映画「先祖になる」の上映会

この映画は、東日本大震災で自宅を失った陸前高田の老齢の男性が、樵の技術を活かして自宅再建を果たすまでを描いたドキュメンタリー映画で、海外の映画祭で受賞した実績を持つ。

上映会は、本学科の学生が主体となって運営する人間文化学会の学生委員が企画し、2013年7月27日のオープンキャンパスに合わせて実施した。学生は、池谷監督との出演交渉、ポスター・チラシの手配、告知のための記者クラブへの働きかけなどを行い、当日を迎えた。



結果及び考察

新聞等で知った桜ヶ丘はじめ地域の人たちが来場した。上映会終了後には監督のサイン会および懇談会を開き、あらためて被災者の様々な現在の姿を認識しあい、それぞれの今後の行動について考える時間を共にすることができた。

実施内容(2) 展覧会「学校日誌から見る 昭和の気仙沼展 Part 1」の開催

大平ゼミが 2009 年度より行ってきた気仙沼

市内小学校所蔵資料調査で収集した学校日誌の画像から 120 点を選び、写真パネルにして展示した。市内 14 校の日誌をもとに、火災で資料を失った学校 2 校の分も含め、さらに戦前の学校行事の一年を写真で展示した。

展示資料の選定は、学校日誌で卒業論文、修士論文に取り組んでいた大平ゼミの 3 名の学生が担当し、2 年・3 年次のゼミ生が、キャプションと写真パネルの製作を担当した。パネル製作には他のゼミの学生も参加し、授業の合間を縫って 120 枚を作成した。

2014 年 2 月 19 日に展示作業を行い、23 日に撤収した。作業は学科全体に呼び掛け、学生とともに教員も多く参加した。会期中は常時 5~6 名の学生が気仙沼市内に宿泊して会場(市民会館)に常駐し、来場者への説明を行った。

結果及び考察

高齢者を中心に多くの来場者があった。特に高齢者は、母校のパネルに恩師の名前を見出して昔を懐かしんでいた。学生はその方々からお話をうかがい、写真展が心の安らぎを感じる時間をもつことのお役に立てたことを実感し、研究成果を社会に還元することの意味を実感した。

なお、展示作業・撤去に参加した学生は、気仙沼リアスアーク美術館で開催中の震災特別展を見学し、学芸員課程の 2 年生は、この見学を通し、2014 年度に実施する学芸員課程のシンポ



ジウムについて、手掛かりを得ることができた。